

リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立東山中学校（鳥取県）

【取組内容①】 企業探究を通して自己の生き方を考えるプロジェクト（2 / 2）

2-3.整理・分析

収集したアンケートを分析して、各グループのアイデアを練り直した。また、自分たちのプロジェクトが論理的・現実的かどうかについて分析し、提案を練り上げた。

2-4.まとめ・表現

提案用の資料をGoogleスライドで共同編集し、自分たちのプロジェクトを他学年にプレゼンすることで改善点を得た。また、生徒自らが渉外した機関（官公庁、専門学校、民間企業等）とMeetを活用したオンラインミーティングを行い、Mission解決のアイデアをブラッシュアップした。学校外の大人とのコミュニケーションを通して、学校内の学びを学校外で活用・発揮することで、より確かなスキル形成につながるとともに、学校内では得られない体験をすることができた。最終的に、民間企業1社に中間成果報告を行い、各グループに対してフィードバックをもらった。

2-5.振り返り・改善

毎時間の取組や振り返りを学習支援ソフトに蓄積し、デジタルポートフォリオとして整理させた。探究の過程を俯瞰させて、自己の資質・能力の向上について振り返らせた。中間成果報告で指摘されたことを改善し、10月の最終報告会に向けて探究を進めていった。



3. 成果

3-1.自己の学びと将来とのつながり（キャリア教育）

校内の学びを学校外で発揮（大人にプレゼン等）することで、将来に必要なスキルを実感したり自分の将来像を考えたりする記述が多く見られた。

以下、生徒記述〔「働くこと」についての振り返り〕

- ・自分の興味のあるMissionに取り組み、将来に必要なスキルや能力が分かった。普段の授業では知ることのできないリアルな社会を感じる事ができた。改善点を修正して後半も頑張りたい。
- ・課題解決のためには、たくさんの声を聞くことが大切だと思った。自分たちでは思いつかないアイデアも出てくるので、仕事をする上で様々な人と関わることも必要なのだと考えた。今後の生活でもコミュニケーション能力を高められるように意識して取り組みたい。

3-2.資質・能力の育成・向上（特に、情報活用能力）

本校設定の資質・能力について、7月の自己評価から平均2.4ポイント（7段階評価）の向上が見られた。特に「テクノロジーを使いこなす力」については、クラウドを活用した情報共有や共同編集、学校外ともMeetでつながる技能や経験など、情報活用能力を活用・発揮させる場面を多く設定できた。

4. 今後に向けて

本プロジェクト（メタバース商品の価値向上）を、文化祭で他学年や地域の方が体験できるブースを企画・運営する。次年度以降も、紙面上ではなく、実社会とつながり学校内の学びを学校外で発揮・実践・活動できる場をコーディネートしたい。また、同様の実践を市内の学校と共同実践し、探究的な学習をより充実させ、生徒の学びの力を高めていきたい。

東山スタイル（資質・能力）の変容

